2025年7月10日

会　員　各位
関係者　各位

食農資源経済学会
会長 山本　直之

2025年度 食農資源経済学会 第19回大会（佐賀大会）のご案内

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、2025年度食農資源経済学会第19回大会（佐賀大会）を下記のとおり開催いたします。多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

【1】日　程

9月5日［金］	◇理事会	16：00～18：00（農学部学部運営会議室）
9月6日［土］	◇報告討論会	9：00～16：50（農学部大講義室）
	◇編集委員会	12：00～13：00（農学部小会議室）
	◇総会・常務理事及び会計監事選挙	13：00～14：20（農学部大講義室）
	◇新常務理事会	17：20～17：50（農学部学部運営会議室）
	◇懇親会	18：00～20：00（佐賀大学生協 大学会館）
9月7日［日］	◇研究報告会	9：00～16：00（農学部1号館・3番教室及び5番教室）

【2】会　場

◎大会会場　　**佐賀大学（本庄キャンパス）農学部内**
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1
電話番号　0952-28-8731（第19回佐賀大会実行委員会・辻研究室直通）

※車でお越しの場合、キャンパス内の駐車場をご利用できますが有料（毎時100円）です。
キャンパスへの入構は、佐賀大学南門（国道209号線南バイパス側）からお願いします。

※9 月 6 日[土]の昼食は、事前に申し込みをされた方に弁当を準備いたします。弁当を希望の方は、【5】大会参加の申し込みから注文をお願いします（代金はお茶を含めて 1,000 円程度になります）。受付の際に昼食券をお渡し致します。なお、会場周辺にも飲食店やコンビニエンスストア等がございます（徒歩10分程度）。
また、9月7日[日]は昼食（弁当）等の準備はありません。ご了承ください。

◎懇親会会場　佐賀大学（本庄キャンパス）佐賀大学生協 大学会館

◎大会会場への交通案内

佐賀駅バスセンター（4番のりば）から【4】【11】【12】【63】系統のバスいずれかに乗車。
会場最寄りのバス停（佐賀大学前、佐賀大学西、佐賀大学東）、いずれかで下車。
所要時間約15分、運賃（片道）200円　※JR佐賀駅周辺から大会会場まで徒歩で約45分。
※バス路線図・時刻表については，下記の佐賀市交通局HPでご確認下さい。
http://www.bus.saga.saga.jp/noriba.html

◎九州各方面から佐賀大学（本庄キャンパス）への主な公共交通機関

○博多・福岡空港方面から

JR 利用：JR 博多駅から特急「リレーかもめ」「みどり・ハウステンボス号」「かささぎ」に乗車、JR 佐賀駅下車。

高速バス利用：

①福岡（天神）バスターミナルから「わかくす号」に乗車、佐賀駅バスセンター下車。

②福岡空港から西鉄高速バス（佐賀第二合同庁舎行き）乗車、佐賀駅バスセンター下車。

○長崎・佐世保方面から

①九州新幹線利用、JR 武雄温泉駅で在来線（佐賀・博多方面）に連絡、JR 佐賀駅下車。

②特急「みどり・ハウステンボス号」利用、JR 佐賀駅下車。

○鹿児島・宮崎方面から

九州新幹線利用、JR 新鳥栖駅で在来線（武雄・長崎方面）に乗継、JR 佐賀駅下車。

○佐賀空港から

佐賀市営バス（空港リムジンバス）で佐賀駅バスセンターまで約 30 分。

◎主な宿泊施設

（JR 佐賀駅周辺）

アパホテル佐賀駅前中央

アパホテル佐賀駅南口

コンフォートホテル佐賀

サガシティホテル

東横 INN 佐賀駅前

ホテルルートイン佐賀駅前　など

（佐賀大学近辺）

ホテルニューオータニ佐賀

※周辺施設（SAGA アリーナ等）でイベント開催の場合、宿泊料が高くなることがあります。ご了承下さい。

※宿泊料金等の詳細は、以下のサイト等を参照してください。

アゴダ：https://www.agoda.com　＞佐賀市＞ホテル

ブッキングコム：http://www.booking.com

【３】エクスカーション

佐賀大会では都合によりエクスカーションの企画はありません。

催行を期待しておられた会員の方々には申し訳ありません。佐賀に早くご到着の際は、佐賀城址、旧長崎街道沿い街並み、バルーンミュージアム、佐賀県立美術館、佐賀大学附属美術館など近辺の施設をご散策下さい。

【４】報告討論会

○共通テーマ『北部九州の水田農業構造の変化と担い手形成（仮)』

9:00～9:05　学会長挨拶　山本直之（宮崎大学）
9:05～9:20　座長解題　　江川　章（中央大学）

○報告討論会のねらい

近年、コメをめぐる諸問題が議論されるなか、水田農業のあり方を考察することは重要な課題となっている。本報告討論会では北部九州の水田農業を対象にし、なかでも米麦二毛作に野菜作を取り入れた佐賀県の農業構造の変化と担い手形成のあり方を検討する。ここでは統計分析による北部九州（佐賀県）の特徴を示したうえで、佐賀県下の集落営農組織と個別大規模経営の経営実態と課題を分析し、議論を行う。

○報告討論会各報告時間

9:20～10:00　第１報告「新基本法下における農業構造の変化と地域性
－農業センサス分析による北部九州の特徴－」
橋詰　登（農林水産政策研究所客員研究員）

10:00～10:40　第２報告「集落営農統合後の地域農業の動向と担い手形成
－佐賀県白石町を事例に－（仮）」
渡部岳陽（九州大学）

10:40～11:15　第３報告「集落営農組織の取り組みと課題（仮）」
馬場豊輝（農事組合法人・小鹿ファーム代表）
辻　一成（佐賀大学）

11:15～11:50　第４報告「個別大規模経営の経営展開と課題（仮）」
岩石　学（有限会社・岩石農産代表）
辻　一成（佐賀大学）

11:50～12:00　事務連絡
12:00～13:00　昼食
13:00～14:20　総会・常務理事及び会計監事選挙
14:20～14:50　コメント（2 人予定・各 15 分）
第１コメンテーター　井上憲一（九州大学）
第２コメンテーター　調整中
14:50～16:50　討論

【５】大会参加の申し込み

大会（報告討論会・研究報告会・懇親会）参加希望者は、8月９日[土]までに、下記 URL あるいは QR コードの Microsoft Forms（MS Forms）より、参加申し込み手続きを行ってください。

※こちらで、9 月 6 日[土]に限り、昼食（弁当）の注文も承ります。

※予約の関係上、懇親会の出欠についても、下記 URL または QR コードから事前申し込みをお願いします。

①大会参加申し込み URL と QR コード

https://forms.office.com/r/z6v5AgZEfF

2025年度 食農資源経済学会 第19回大会（佐賀大会）参加申し込みフォーム

学会 HP のトップページにある「トピックス」にも大会情報を掲載しています。ここからでも上記の大会参加申込み URL にアクセスできます。

②MS Forms が使用できない場合の参加申し込み先

2025 年度第 19 回佐賀大会実行委員会・事務局　E-mail：tsujikjp@cc.saga-u.ac.jp

件名を「大会参加申込み・氏名」として、上記アドレスまでメールをご送信ください。その際、報告討論会、懇親会、研究報告会のそれぞれについて参加の意向、及び 9 月 6 日[土]の弁当注文希望の有無をお知らせください。

※事務処理の都合上、可能な限り MS Forms による参加申し込みにご協力ください。

【６】研究報告の申し込み

報告希望者は、**7 月 31 日[木]（必着）**までに、報告要旨 1 ページ分（「研究報告要旨作成要領」参照）のデータファイル（Microsoft Word）を電子メールに添付し、メールの件名を**「研究報告申込み・氏名」**として下記の学会事務局宛に送信してください。

なお、研究報告会での発表を希望される非会員の方は、申込締め切りまでに、入会申請手続きと年会費（2025 年 8 月 1 日～2026 年 7 月 31 日分）の支払いを行ってください。

報告時間は（質疑を除いて）15～20分の予定です。報告順、時間等については追って学会HPに掲載いたします。

研究報告要旨送付先：学会事務局　髙橋義文

E-mail：jimu@shokunoshigen.jp

【７】大会参加費

①大会参加費　　：　2,000 円（非会員 3,000 円）
②懇親会費　　：　5,000 円（学生会員 3,000 円）

【大会についてのお問い合わせ先】

（1）第 19 回大会（佐賀大会）についてのお問い合わせは、以下にお願いいたします。
大会実行委員会委員長（兼事務局）　：辻　一成（佐賀大学）
Tel. 0952-28-8731
E-mail: tsujikjp@cc.saga-u.ac.jp
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1
佐賀大学農学部　食農ビジネス開発学研究室（辻研究室）

（2）当学会への入会および研究報告等についてのお問い合わせは、以下にお願いいたします。
食農資源経済学会・学会事務局　：髙橋義文（九州大学）
Tel. 092-802-4694
E-mail : jimu@shokunoshigen.jp
〒819-0395 福岡市西区元岡744　九州大学 大学院農学研究院 農業資源経済学部門内

以上

大会関係会場　案内図

参照 URL：　http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/00_pdf/1.universalmap-honjo.pdf

（注）○赤囲み（大）は、報告討論会、研究報告会、その他関係会議等の会場。

　　○赤囲み（小）は、懇親会会場。

研究報告要旨作成要領
Manual for Making Abstract

1. 書式 Form

1）A4 判横書き。横 35 文字×縦 32 行。
2）上下，左右にそれぞれ 30mm の余白を取る。
3）文字のフォントサイズは全て 12 ポイント。
4）読点は「,」（全角コンマ），句点は「。」。

1）A4 size and vertical 32 lines
2）Take the blank of 30mm in top and bottom, right and left.
3）All font size 12pt.

2. 構成 Constitution

1 行目 : 題目 MS ゴシック，センタリング。題目が 2 行にわたる場合は，適宜改行してセンタリング。
副題 MS ゴシック，センタリング，ハイフンで閉じる（－副題－）。
2 行目：空白行。（副題がある場合は，その次の行を空ける。以降同様。）
3 行目：氏名（所属），MS 明朝，センタリング。姓と名の間は全角 1 文字空ける。
4 行目：空白行。
5 行目：本文，MS 明朝。英数文字は半角，Times New Roman。

Line 1) Title; Times New Roman, Bold, Centering. When the title spans two lines, break the line and center it accordingly. In addition, when there is a subtitle; Centering and using colon.
Line 2) Blank line.
Line 3) Name (Affiliation), Times New Roman, Centering.
How to write name; “Givenname SURNAME” (surname with all letters capitalized)
Line 4) Blank line.
Line 5) Text; Times New Roman.

3. 設定 Setting

用紙サイズ	A4	上段マージン	30ミリ
紙の置き方	縦方向	下段マージン	30ミリ
1行文字数	35文字	左端マージン	30ミリ
1ページ行数	32行	右端マージン	30ミリ
文字方向	横書き	ページ番号	付けない
本文のフォント	MS明朝	フォントサイズ	12ポイント
英数文字のフォント	半角，Times New Roman		

Paper Size	A4	Header margin	30mm
Print orientation	longitudinally	Footer margin	30mm
Number of lines per page	32	Left margin	30mm
Font	Times New Roman	Right margin	30mm
		Page number	Don't write
		Font size	12pt

4. その他 Other

上記設定をしたテンプレートを学会ホームページよりダウンロードし，適宜利用すること。
Please download and use the template with above settings from the website.

九州地域における農業・農村の持続的発展に向けた課題と展望
－福岡県を事例として－

九州　花子（九州大学）
九州　太郎（九州大学）

九州は他地域に比べて温暖であり，米，麦，大豆，飼料作物をはじめとする土地利用型作物のほか，果樹や野菜といった労働集約的作物の栽培が盛んである。九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であり，農業の持続的発展のあり方を探ることが，とても大きな課題になっている。

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

Challenges and Prospects for Sustainable Development of Agriculture and Rural Areas in the Kyushu Region: A Case Study of Fukuoka Prefecture

Hanako KYUSHU (Kyushu University)
Taro KYUSHU (Kyushu University)

Kyushu is warmer than other regions in Japan, and cultivation of land-use crops such as rice, wheat, soybeans, and fodder crops, as well as labor-intensive crops such as fruit trees and vegetables, is flourishing in the region. Kyushu is one of the regions in Japan where agriculture accounts for a large share of the national economy, and the search for ways to sustainably develop agriculture has become a major issue.

.
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.